

大きな字で読みやすい

浄土真宗 やわらか法話 3

やわらか法話 3 ・ 目次

生かされて生きる	〔村上 泰順〕	6
留学生に教えられること	〔白川 晴顕〕	12
悲しみを乗り越える	〔井上 慶永〕	20
光に遇う	〔西原 祐治〕	28
今、私たちに大切なこと	〔三宮 亨信〕	36
親の気持ちが親を動かせる	〔安方 哲爾〕	44
あの人の置き土産	〔田井 智彦〕	52
だいじょうぶ、だいじょうぶ	〔片江 哲海〕	59
功德の大宝海	〔松嶋 智讓〕	67
しりとほしたらばこそ	〔佐々木義英〕	75
「幸せ」と「仕合わせ」	〔松本 智量〕	83
法身の光輪きはもなし	〔相馬 一意〕	92

生かされて生きる

村^{むら}上^{かみ}泰^{たい}順^{じゆん}
(大阪府・専光寺住職)

二〇一〇年、父が八十五歳で往生^{わうじやう}しました。八十キロあった体重が半分以下になり、家でも車いすを使い、ベッドへの移動も自分の力ではできなくなっていました。口から菌が入って肺炎にならないようにとうがいをし、歯磨きもしていましたが、いつの間にか、うがいがうまくできなくなり、歯磨きも家族の者がするように

なってきました。また食事もだんだんと喉を通らなくなりました。お茶や飲み物にとろみをつけて、少しでもうまく飲み込めるように工夫をしていました。しかし、飲み込む力もさらに弱くなり、点滴の助けを借りて体力を維持していました。

そんな時に、人生の最期をどのように過ごすのがいいのかについてケアマネジャーの方と話をしていると、「生かされる」という言葉が出てきました。医学の進歩により今は、さまざまな方法で延命ができます。このことをケアマネジャーの方は「生かされて生きる」と言いました。この人はできるだけ自然にいのちを終えることがいいと考えていましたので、無理に寿命を延ばすような意味の

「生かされて生きる」という言葉を否定的に使っていました。

私は「生かされる」という言葉が否定的に使われるのを聞き、「あっ、こんな使い方もあるのか」と驚きながら、違和感を覚えませんでした。

私が「生かされて生きている」ということを聞き始めたのは、父の法話ほうわの中でした。いつどのような機会に聞いたかは覚えていませんが、しばしば「大いなるいのちに生かされて生きている」という話をしていました。また、私の寺の封筒には「生かされて 生きている おかげさま」と、父が考えた法語が書いてあります。私たちは一人で生きているつもりでも、仏さまや多くの人びと、物事に生

かされています。その意味で「生かされて生きている」と聞いていましたし、また私もそのように言っています。

私たちは、親、妻子、家族、知人、友人がいるから生きていけます。これらの人びとのおかげで楽しさ、よろこび、やりがいなどが与えられています。まさに生かされて生きているといえます。これらの人がいなければ、頑張りもききませんし、つらいことがあるとすぐになえてしまいそうです。また安全に健康に生きていけるのは、今の社会のさまざまな物事のおかげです。このことからしても、多くの人びとや物事に生かされて生きているといえます。

また、多くの生き物のいのちをいただいで人間としての生活をし